

世界一重いスモモに 山梨・南アルプス産「貴陽」が認定される

森谷 修
Osamu Moriya

1. 認定審査の状況

平成24年7月24日、午後5時30分、山梨県南アルプス市の「白根桃源文化会館」桃花の間には南アルプス市長、巨摩野農協長をはじめとする関係者200名ほどが集まり緊張した雰囲気の中、ギネス認定の審査会が執り行われた。

審査を担当した公式認定員は、ギネス・ワールド・レコーズ・ジャパンから派遣されたイギリス人の「カルロス氏」で一見日本人と見間違えるほどの顔つき・体格で、びしっと濃紺のスーツ、黄色のネクタイを着こなしたダンディな紳士であった。

あらかじめ壇上のテーブルにセットした認定審査用のスモモ果実3個が並べられ、大勢のギャラリーが固唾を飲んで見守る中、認定員自らが果実1個・1個を慎重に所定の項目に従い専用の機材を使い計測を始めた。

認定員が項目ごとに計測の結果を記録し、記録用紙を渡された通訳の女性が発表するたびに会場内はどよめきが起こり、そして次の審査結果への期待と注目が集まった。

約30分にわたる果実3個の計測結果は次のとおりとなった。

NO.	品種名	重量	果実円周長	果実の高さ
1. 新津園産	貴 陽	310.57g	27.90cm	7.1cm
2. 野中園産	貴 陽	319.04g	28.06cm	7.0cm
3. 小澤園産	貴 陽	323.79g	28.10cm	7.3cm

表に示すとおり、N03の小澤さんの果樹園から出品された「貴陽」が最大重量となり、世界で一番重

いスモモとして即日認定され、カルロス氏から南アルプス市長に額入りの認定証が交付された。(意外に早い交付で、皆さんビックリ)

その後は記念撮影、中込市長、小池組合長、内池市議会議員、小林商工会長らお歴々が御礼とお祝いの挨拶をして、会場のテーブルに置かれたギネス認定の世界一スモモの「貴陽」を全員で試食し、念願の目的を達成したイベントは約1時間で解散となった。

2. ギネス認定の反響

明治時代から続く長いスモモ栽培の歴史の中でも300gを超えるスモモ品種は初めての出現で、それが南アルプス市原産であることから地域が一体となつてのギネス認定という挑戦で、改めて故郷自慢の産物が世の中に認知された宣伝効果は極めて大といえる。

ちなみに翌日の地元新聞「山梨日日新聞」に一面トップで報道され、記事をみた県内の消費者から市役所や農協に「どこで売っているのか、どんな味をするのか、値段はいくらくらいか」等の問い合わせが殺到した。

3. 「貴陽」の解説

さて、「貴陽」の育成経過と品種特性を簡単に紹介したい。

昭和52年、南アルプス市湯沢の果樹農家「故・高石鷹雄氏」がスモモ品種の「太陽」の交雑実生を獲得して、自園に播種・育成し、結実後は選抜を繰り返し、大玉で着色・食味良好な系統を選抜して

平成5年に品種登録の出願、平成8年に新品種として登録された。

果実の特性は、何とんでもモモの20玉クラス(5kg入れ)の巨大果となることが大きな特長である。普通のスモモの大きさは100～150gが中心であるので、約2倍の重さで、大人の握りコブシ位に達する大きさとなる。

成熟期は、育成地で7月下旬、果実の形状は地球と同じ円形、着色は鮮明な紅紫色となり、果肉はマスクメロンに似たクリーム色で果汁が多く食味も非常に良好で高級感の溢れるスモモである。

栽培性については、はっきり言って「難」である。開花が早いので凍霜害対策の実施、徹底した人工授粉による結実確保、適正着果による大玉生産、着色期以降の雨による玉割れ(傘かけ励行)、鳥害防止(全園防鳥ネット張り)対策、着色向上を図る反射マルチ敷き等が必須管理となる。

4. 明治神宮に奉納・祈願

ギネス認定を受けた8月7日には巨摩野農協の役員5名が東京の明治神宮を訪れ、神楽殿に「貴陽」を奉納、世界で最も重いスモモに認定された事を報告し、産地の振興と農家の繁栄を祈願した。

5. 故・高石鷹雄さんの功績に感謝

交雑実生を獲得し、春に播種、発芽した苗木の育成、6年後の初結実をみてそれから10年に及ぶ優良系統の選抜、そして品種登録まで約20年という長い歳月にわたり独力で新品種を作出した苦労は並大抵ではなかったものと思われる。

永年性作物である果樹の育種に秀でる人物は、最良の交配母本を決定できる的を得たセンス、選抜にあたっては果実の特徴を客観的に見極める冷静な判断力、大切な選抜対象の原木を効率的に育成し適正な樹づくりと栽培管理が実践できる最高の技術力を有することが求められる。

それらの資質をすべて備え、一途の信念を貫き通し世界一の品種「貴陽」を誕生させた「故・高石鷹雄さん」の大いなる功績に対し、改めて深く感謝して途中下車を終わりにしたい。

平成24年8月25日

(日本曹達株式会社 農業化学品事業部 普及グループ 技術顧問)